昭和館館長賞

空ばくのおそろしさを知って

鎌ケ谷市立五本松小学校６年
小林　蒼衣

私は半藤一利さんのオーラルヒストリーの動画を見て、日本が戦争をしていたころ、日本に空ばくがあり、そのころを生きていた人達はこんなに大変な毎日をすごしていたということを初めて知りました。今の東京はたくさんのビルが建っていて、とてもきれいな都会だなと思っていたけれど、78 年前は、たくさんの家が焼かれ、たくさんの人が亡くなっていたことにおどろきました。しかも私は、空ばくの経験が無いので、毎日空ばくを受け、つらい生活が当たり前のようにすごしていた半藤さんは毎日、命がけで、大変だったんだと思いました。もし、私がその場にいたらきょうふのあまり固まって動けなかったんじゃないかと思います。その中でも半藤さんは、私と同じくらいの年でありながら、冷静に判断してにげているのがすごいと思いました。半藤さんの一つ一つの行動で生きるか、死ぬかが、決まるんだなと思いました。

半藤さんの話でとても印象に残ったことは、見ず知らずの人が半藤さんにくつをわたしてくれたという話です。空ばくが終わり、家に帰る時、くつが無く、地面が熱くて困っていると、近くの人が落ちていた誰かのくつをわたしてくれました。私はそのやさしさに感動しました。自分がくつを持っていても、子どもが困っていることに気づけないと思うし、もし気づいていてもあんな状きょうの中であげることは出来なかったのではないかなと思います。あんな大変な目にあっても人を思う気持ちを私も大切にしたいと思いました。

もう一つ印象に残った言葉は、「俺はこれから絶対という言葉を使わない」と、半藤さんが言っていたことです。「絶対日本は勝つ」などの言葉は、全部うそだと語っているのを見て、私も絶対ってことは無いんだなと思いました。予想もしていなかったことが起きて、とても悲しかったんだと思います。

このインタビューを見て、私は戦争をしてはいけないと思いました。戦争をするとたくさんの人が焼け死んでしまったり、おぼれ死んでしまいます。そういう姿を見たくないので戦争はしてはいけません。今、世界でも戦争が起こっています。戦争はその国だけの問題ではなく、日本にもたくさんのえいきょうが出ています。日本も北朝鮮やかん国、中国、ロシアとの領土の問題で解決できていないことがあります。その一つ一つの問題を少しずつ解決していかないと、戦争が起こってしまいます。見て見ぬふりをしないで一つずつ向き合って解決していかなければいけないと思います。